

## 第3回鳥取駅周辺再生基本構想（第2期）策定委員会 議事要旨

日 時：令和2年11月4日（水）

10:00～11:30

場 所：鳥取市役所本庁舎6階第5～8会議室

### □配布資料

鳥取駅周辺再生基本構想（第2期）策定委員会次第

資料1 鳥取駅周辺再生基本構想（第2期）策定委員会名簿、配席表

資料2 第3回鳥取駅周辺再生基本構想（第2期）策定委員会会議資料

資料3 個別事業概要

参考 鳥取駅周辺再生基本構想（平成23年度～令和2年度）

参考 第2回鳥取駅周辺再生基本構想（第2期）策定委員会議事要旨

### □次第

#### 1. 開会

#### 2. 委員長あいさつ

ア. 鳥取駅周辺再生基本構想（第2期）策定委員会は設置要綱第9条に基づき、本委員会は公開のもと進めることで合意した。

#### 3. 報告・協議事項

ア. 事務局より、資料2及び3に基づき、第2期基本構想に掲げる再生ビジョン及び将来像の実現に向けた方策について説明。

#### 4. 意見交換

委員長：事務局より再生ビジョン、将来像の実現に向けた方針と、具体的な個別事業のイメージについて説明された。今回の基本構想は、鳥取市のあるべき姿を考える上で重要な役割を果たすことになる。委員からご意見、ご質問等を頂きたい。区域については、このような表現で良いか。

委員：区域について前回意見したが、このように反映いただき感謝する。事務局案には、全般的に「観光」という視点がないがなぜか。観光という言葉は、個別事業案では「観光案内所等」にあるが、これは駅前地区を案内するのではなく、市全体の交通結節点、ターミナル機能という意味である。これも重要ではあるが、周辺には民藝美術館等があり、これは中心市街地活性化の大きな要素であると考えている。例えば、先日、旧吉田医院の特別公開を行ったが、コロナ禍にあっても民藝美術館の入館者数は前年比170%近くと多くの方が訪れており、約60%が市外からの来訪者であった。その他、まちパル鳥取等の観光関連の施設もあり、更に多くのホテルも位置しているため、ビジネスを兼ねた観光も含め多くの方が来られている。事務局案では観光という要素が抜けているのではないか。観光という柱を立ててはどうか。

- 委員：「次世代に向けて」という文言があり、幼稚園児までの子どもや子育て世代を対象としたものは見えてきたが、その他の世代を対象としたものが見えてこなかった。「次世代へに向けて」ということであれば、若者への対策がどこかにあると良いのではないかと思う。
- 委員：対象エリア外も柔軟な対応が必要とのことだが、区域外の高架記念公園についても有効に活用できないか。鳥取中央郵便局付近は、特に年末は駐車待ちで渋滞し車がほとんど通れないことがある。公園を駐車場として利用するなど有効に活用できないか検討を願いたい。
- 委員：資料2の18ページで説明いただいた、青粋の下段「駅南賑わい創出のための空間活用(公共駐車場・駐輪場の整備)」の内容についてだが、これは、以前より鳥取駅周辺再生基本計画の中で、市とJRとで検討してきた経緯がある。その後の周辺状況を見ると、市役所本庁舎が駅南に移転する等、状況が変化してきている。大きな目的である「賑わい創出」という目的はそのまま良いと思うが、公共駐車場の整備に限定されることなく、例えば商業系や居住系など、利便施設全般を含めて検討してはどうか。具体的な案を持っているわけではないが、広く検討してはどうかと考えている。
- 委員：先日のニュースと新聞記事で、商工会議所と鳥取市の会議について報道されており、バスターミナルの移転や公園の整備、観光案内所の移転などについて触れられていた。このコロナ禍では大掛かりなことは無理だという話もあった。先日、商工会議所で「まちづくりと公共交通・つながる とつとりのまち」、新しい公共交通のあり方をデザインするというテーマでセミナーが開催された。既存のバスターミナルを活用しながら、お客さんに分かりやすくするにはどうしたら良いか、まちづくりをどうしていけば良いかという観点からは、市街地における歩いてめぐる観光等には分かりやすい案内看板が必要であるという意見があり、乗り場の案内や時刻表も分かりにくいなどの指摘があった。コロナ禍で費用のかかることはできないが、例えば、以前はバスターミナル付近のケヤキ広場は枝が張りすぎて暗く見通しが悪かったが、木の剪定がされてからは見通しが良く明るくなっている。天気の良い日は年配の方が集まって話をされている状況も見られる。ハトに餌をやっているような状況は問題だが、木の枝が少し無くなるだけで、明るくなり人が集まってくる。公共交通とまちをつなぐという点では、鳥取市交通政策課によるノルデ運動があり、これは、毎週金曜日にこれを示せば公共交通料金は半額になり、協賛店舗でサービスを受けられる取り組みである。こういった取り組みを活用して市内や中心市街地に人を呼び込めるのではないか。
- 委員長：バスターミナルの再整備をここに挙げさせていただくことについてはどうか。建物が古くなっている一方、事業費がかかるという話もあったが、10～20年先を見据えると、いずれは検討しなくてはいけない課題ではないかと思う。このあたりの扱いをどうしたらよいか。
- 委員：商工会議所の会頭からも何とかしてくれないかと意見があったが、バス会社や鳥

取市からは所有権や財政面で難しいのではないかという反応があり、20年後にどうなっているかは分からないが、事業者としては20年先を考える余裕が今はない。早々に整備ができるとは考えていない。

委員長：再整備としているが、方向性という点ではどうか。

委員：方向性としては、以前から申しており商工会議所の意見もあったが、バスターミナルを風紋広場の方に寄せたり、観光案内所を近くに設けたりすることで、利便性を向上させるようなことを再整備として考えていただきたい。

委員：個別事業案「⑦道路空間の再配分による歩行空間の確保」のように、歩行空間を広くとるということは、健康長寿という観点から、歩いて健康なまちという意味でもとれるだろうし、低炭素や健康という点からは自転車も良いのではないかと思う。シェアサイクルに加えて、一般の自転車利用が多いことから、駐輪場の整備等により自転車を利用しやすく、歩行者が歩きやすい環境の整備をお願いしたい。委員から指摘のあった対外発信や観光については、「⑧情報発信拠点等の整備」のうち「観光交流センターの整備」が観光の要素なのではないかと思う。鳥取県の玄関口である鳥取市や鳥取駅から発信し、人を鳥取砂丘等に広げていくという意味からは、情報発信というのはもちろん重要ではあるが、観光という要素が薄いのではないか。先ほどの委員の指摘のように、民藝美術館等を含めた観光という視点からもうまく発信していただきたい。

委員：本通り商店街のある若桜街道の建物は、鳥取大火の後に一斉に建てられた建物が多く、老朽化が進み、原因不明の雨漏りもあるが、長屋形式のため修理ができない状況もある。個人的には、将来的に若桜街道を1ブロックずつ買い取り、低層部分を店舗とした中層のマンションに建替え、高齢者など、車で買い物に行けない方向けのマンションとするという案を考えている。先日の市役所旧本庁舎等跡地の検討の場では、商工会議所の会頭から同じような趣旨の発言もあった。コンパクトシティ化という点では良い案だと考えている。行政でできないのであれば、組合で開発を行うことも考えている。空き店舗から順に買い取っていき、マンションとして貸し出していくという考えである。鳥取駅から県庁に至る若桜街道は重要な要素であり、長期的スパンとなっても構わないので、このことを検討いただきたい。観光の点では、発信と言っても東京のメディアには届かないのではないかと思う。一提案としては鳥取城の擬宝珠橋の復元だけでなく、建物も再建すべきと考えている。

委員：「個別事業の全体イメージ(案)」は、現状の図面に落とし込んだため、こうならざるを得ないのかもしれないが、10年後や20年後を考えると、これまでの場所や今あるものに当てはめても新しいものは出来てこないのではないか。行政の力を入れて、大きく変えていくことも一つではないか。民間も動く必要があるが、現状を抜本的に改善していくというか、このまちをどうしていくか考えていく必要があるのではないか。現状、タクシーは駅の南北に待機場所があり、タクシーから個別の要望はないが、バスターミナルは、周囲の木を切って見通しが良くな

ったと言っても、駅を降りた人からは見えにくく、改善が必要なのではないか。

委員：観光についてだが、利用者からの「砂丘には行ってきたが、次の列車を待つ1時間から2時間の間に短時間で行ける場所がないか」という問い合わせに対しては、民藝美術館や鳥取城を案内している。委員の意見にもあったが、今後、こういった施設の案内が充実することは良いことだと思う。もう一つは、最近は団体バスの問い合わせがある。駅の南口にバスの待機所があるが、現在は交通広場に2台分の待機場所しかなく、代替えとしていた美保球場の駐車場は、改修のため12月までしか利用できない。有料でも構わないので、観光バスの待機所として提供いただける場所があればと思う。

委員：バスターミナルについて、ご検討いただき感謝する。ただ、案の中に「他の施設の複合についても検討する」ということが書かれているが、私が最も心配するのは事故である。バスと歩行者、自転車が交錯するのは危険である。安全という面からも検討いただきたい。

委員：回遊性や滞留性ということが一番掲げているが、その割には、個別事業案の中に駐車場に係る事業がないことが気になる。第1回、第2回の委員会の意見では駐車場に関する意見があるが、これに対する駐車場に関する施策がない。ただ、すぐにはできない事業であるし、本当に駐車場が不足しているのか、どのような利用者があるかなどの調査も必要であると思う。すぐに事業化ということはできなくとも、検討という形で施策に挙げ考えておくべきものだと考える。また、事務局からも説明があったが、外部空間の活用は様々な場所で行われており、「外なら感染症も安心だろう」という思いで利用されていると思うが、本当に鳥取でそれがあてはまるかは微妙であると考えている。オープンスペースを使うことも感染症によってはそれだけでは安全ではない場合もあり、民間事業者はこうしたリスクや不安感を負わなければいけないという矛盾もある。まちづくりという観点からは離れるかもしれないが、こうした事業者の不安や運用についても考えることが必要ではないかと思う。

委員：自転車やシェアサイクルについては、私自身も鳥取在住時には車を持たず、自転車と徒歩で生活していた。まちなかにマンションを整備して高齢者が住みやすいまちにするという提案もあったが、自動車を利用できない人にも優しいまちづくりということを考えていくなれば、道路空間を再配置し、自転車や歩行者のための空間を整備していくというのは、先進的でチャレンジングな取り組みではないかと思う。ただ、その場合に、車がどのルートを通るかという検討が同時に必要であり、駐車場配置も含め、どこから来る人にどこに停めてもらい、中心市街地の中をどのように歩いてもらうかなど、動線の検討については現段階の構想の中ではまだ不十分ではないかと思う。

委員長：委員から頂いたご意見を大きく分けると、まず、観光の視点が記載不足ではないかという点、子どもの視点はあるが、若者の視点がいないという点、高架記念公園を区域に入れられないかというご意見、駅南賑わい創出のための空間活用につい

て駐車場に限定せず利便施設という考えでも良いのではないかという指摘、バスターミナルについて盛り込むことは難しいが、案内標識の整備は盛り込んでいきたいという点、もう少し大胆に面的な開発を含めてはどうかという点、コンパクトシティやウォーカブル推進等の考えを盛り込んでどうかという点、バスと歩行者の動線が混在しないよう安全性に配慮してほしいという点、まちなかを回遊する際の駐車場や自動車の乗り入れは、それぞれの役割やコースを整理する必要があるのではないかという指摘だったかと思う。後ほど、理解の違いがあればご指摘いただきたい。まずは、観光の視点についての盛り込み方について、事務局から考えはあるか。

事務局：観光の視点は、まさにご指摘のとおりと考えているが、この構想は市がすべて一から個別事業案を組み立ててご提案するという形式ではなく、皆さまからいただいたご意見を十分受け止めさせていただき、市民に公表するパブリックコメントでは、いただいた視点を踏まえて提案したいと考えている。市内部では、関係課長が集まり、事業を検討している。その中には観光担当部署も含まれており、次回に向けて関係課とも議論しながら検討したい。

委員長：今後、第4回委員会では基本構想案を作成し、その後パブリックコメントを作成することになる。次回の基本構想案には、皆さんから頂いた意見をどれほど盛り込めるかという点では限界もあると思う。できる限り盛り込めるよう整理したいが、区域などの全体と連動する部分については、鳥取駅周辺を対象とした基本構想ということもあり、限界があるという点についてはご理解いただきたい。

委員：現在、旧本庁舎等跡地をどうするかという委員会も動いている。その議論の中ではオープンスペースという意見も出ている。今後こういった形になるか分からないが、この構想の議論の中でも同じくオープンスペースについて触れられている。現在バード・ハットがあって、風紋広場の有効活用、あるいは公園の活用などについて意見も出ているが、駅前地区のオープンスペースのあり方と旧本庁舎等跡地活用の考え方があまりにも離れていると、あちこちに広場を造ってどうするかという話にもなるのではないか。そういった点で、両方考えながら検討する必要があるのではないか。

委員長：この点については、両委員会のスケジュールにズレがあり、旧本庁舎等跡地活用が広場と決まったわけではないが、同じ広場と言ってもこちらは駅前とまちなかであり、面積や位置づけに違いがある。役割分担をしながら、まずは駅前のオープンスペースが果たす役割については、整理して意見を皆さんから頂くかたちにしたいと思う。報告・協議事項については以上であるが、意見交換の事項についても併せて意見を頂いたと思う。これだけは言っておきたいというご意見はないか。本日は、オブザーバーとして鳥取県に参加いただいている。駅前には県有地が多くを占めているため、県と協働して事業を進めていく必要がある。これは基本構想であり、今後、基本計画や実施計画を作成していき、随分先の話しにはなるが、県としてこういう取り組みをすれば実現できると考えているものがあればご

教示いただきたい。

オブザーバー：事例で紹介された事業の概要で、こういった事業がどれほどの事業費でどのような効果があったかというものがあれば分かりやすいと感じた。先日、県で景観研修会を行い、一般社団法人まちの魅力づくり研究室の東京大学名誉教授 堀繁先生の講演があり、鳥取駅前にベンチがあるが、ベンチというのは、「どうぞお座りください」、「どうぞまちを楽しんでください」というホスピタリティ表現で、こうした配慮があると人が来るようになるという話があった。また、商店街を疲弊させる3要素に、「壁」、「ガラス戸」、「閉まった入口」があり、この対策としては、「挨拶」として植物を置く、「迎客」でベンチを置く、「集客」でメニューを置くという取り組みをすると、人がたくさん来るという話があった。ベンチの数や密度を増やして、丁寧に整理していくということをやってみてはどうかと感じた。

委員長：今のご意見はどういう形で盛り込めるか検討する。県有地や県道が主になっているが、事業を行うには市と県が連携しながら、場合によっては協働、あるいは事業主体が誰なのかなどをこれから決めていかななくてはいけない。こういった点で県の姿勢はどういったものか。

オブザーバー：9月県議会で議員の代表質問に対し、県、市、関係者で推進組織のようなものを立ち上げてはどうかという知事答弁があった。そういった方針に基づいて、市等と話をさせていただき、今後どのように協力していくかという話をさせていただきたいと思う。

委員長：県も連携しながら事業を進めていくというスタンスに立っていただけるということで理解した。ここで一つ確認だが、個別事業案「⑤駅と商店街をつなぐ歩行者動線の整備」ということで、ここでは具体的にイメージが湧きにくいのだが、駅前に平面横断歩道を設置するというのもこの中で大きな議題の一つだったが、横断歩道に関してこの中に具体的に書き込むことについて、警察からご意見を伺いたい。

オブザーバー：横断歩道の件だが、鳥取駅周辺活性化協議会においても駅前の賑わいづくりということで様々な検討を行っている。この中で分科会を設けて交通量を調査しているが、市役所本庁舎の移転や鳥取西道路の開通に伴って、駅周辺全体の交通量は増えている。横断歩道を新たに設置するとなると、交通量が増えれば渋滞も大きくなってしまふ。こういった問題点を抽出してこれからどのようにまちづくり全体の中で考えていくのかという認識である。個別のことというよりは、全体で考えていくべきものであると考えている。

委員長：全体を考えながら、交通体系、交通量を考えながら判断していくということになるということか。一步踏み込んで、「横断歩道の設置」という表現については、「検討する」ということとするか、あるいは書き込めないだろうか。

オブザーバー：「検討」という表現であれば記載しても差し支えない。結論ありきではなく、様々な方向から検討していくというのが前提である。交通の安全と円滑を両方考

える必要があり、交通規制により、規制を受ける対象となる方もいる。あちらがよければこちらがよくないということもあり、バランスを考えなければならない。いずれも考慮しながら検討していただきたい。

委員長：表現については、事務局と詰めさせていただく。横断歩道という言葉は入れさせていただくかもしれない。道路管理者という立場からは問題はないか。

オブザーバー：問題ない。

委員：先ほど話にも出ていたが、旧本庁舎等跡地の検討と本委員会のまちづくりの検討については、一緒に話をする機会はないのか。できれば、同じ考え方で進めていければ良いのではないかという声が内部から出ている。

事務局：旧本庁舎等跡地検討は、駅周辺の議論と直接的には関係はないと認識している。旧本庁舎等跡地活用については別部署が担当しているが、都市整備部の考え方としては、資料2の9ページの概念図のように、駅周辺では鳥取市に訪れる方や通勤、通学の方も含め、駅を起点にして様々な行動を起こすということに着目しており、鳥取城跡や旧本庁舎等跡地等の利活用に関しては、駅に来られた方がどう動いていくかという点とその方々へのアプローチが重要であると考えている。現在、駅周辺に足りないものを補うために、お示ししている10の事業を推進していくことで、駅を中心として放射線状に市内、県内に動いていただくために構想を検討しているということからすれば、現在、旧本庁舎等跡地は駅周辺の議論と直接関係ないように見えて、将来的に跡地に何らかの拠点ができた場合は関係してくるだろうと考えている。したがって、そういった観点で駅周辺に来られた方が、本通りや、若桜街道、各商店街、旧本庁舎等跡地、城跡等をどのように回遊してもらうのかという観点で、それぞれの検討組織が考えるべきだと思っている。今回の旧本庁舎等跡地活用の議論にただちに駅周辺に関係している皆さんをお招きして議論するというのは、スケジューリングの点からも現時点では難しいと考えているが、庁内連絡会もあるので、ご意見はお伝えしていきたい。

委員長：私は市の立場ではないが、恐らく、基本構想自体はこれで確定ということではなく、時代や諸事情の変化により変更していくことは可能であると考えている。議論の中で、これが本来のものと合わないのであれば、変更していくといったこともあり得るのではないか。同時に議論することは難しいと思うが、互いの状況を確認し合い、変更があればしていくという形になるかと思う。それ以外に何かあるか。

委員：2点、気になった点について話したい。1点目はコンパクトシティという話がいくつかでてきたが、個別事業案の④、⑤、⑥、⑦がそれにあたるのではないかと思う。先ほどの横断歩道の話も、コンパクトシティ構想と連携し、駐車場や動線の見直しをしていければ、横断歩道の設置も可能なのではないかと思う。これに加えて、まちなかで普段自転車を利用している立場からすると、道によっては幅員が狭く、さらに自動車を通るという場合もあるため、レンタサイクル以外に、通常の自転車利用者のことも考えた事業をシェアサイクルの導入等に併せて検討

した方が良いのではないかと思います。2点目は、持続可能な地域社会や低炭素社会を盛り込まれているが、個別事業案としてはシェアサイクルだけになっている。緑化と言っても木を植えて回りをコンクリートで埋めてしまうというやり方が普通だと思うが、それ以外の方法も多くある。例えば何か特別に緑化する又は、広場をつくるなどの具体的な案にはならないかもしれないが、今までのようなコンクリートだけの都市にはしないなど、コンパクトシティとして大きく再編できるのであれば、そこも盛り込んでいければ良いのではないかと思います。

委員長：先ほどのご指摘は、非常に重要なご指摘だと思う。今後、高齢化や人口減少を迎える社会の中で、どのように地域が生き残っていくかということを考えると、行政のコストや負担を低減していく中で、コンパクトシティや、これまでと違った緑化のあり方など、いかにサステナブルを実現していくかという点で、難しい課題ではあるが、本構想でどのように盛り込んでいくか検討したい。

## 5. その他

ア. 事務局より、今後のスケジュールについて説明。

## 6. 閉会

(以 上)